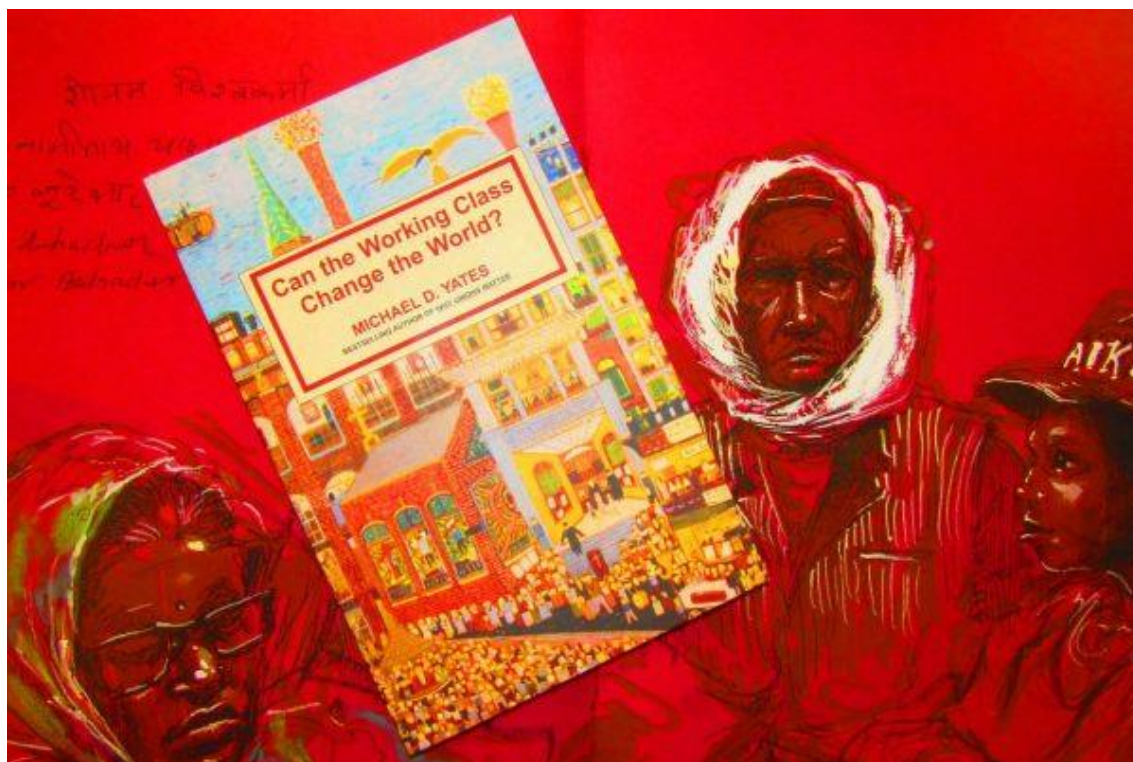


労働者階級の統一：マイケル D. イエイツとのインタビュー

ファールーク・チョウドリー、 Mronline.org(マンリー・レビューのオンライン誌)、2020年8月25日、脇浜義明訳



(ブラックライブズマターの運動が世界的注目を浴びて、バイデンなど支配階級の一翼がそれに乗っかる傾向が見られる中、反差別闘争と階級闘争の統一か分離かという古くて新しい問題に関する論述を取り上げた — 訳者)

資本主義は次々と襲ってくる危機に対して、労働者階級分断という昔ながらのツールを使って乗り越えようとしてきた。労働者階級はそれに対して「世界の労働者の団結」を掲げて闘ってきた。100年以上も前にロシアのプロレタリアートが資本が作り出した分断を乗り越えて勝利したことがあった — ロシア革命である。しかし、それから100年以上経った今、労働者階級は分断されたままである。これに関して、労働者階級の歴史や資本主義危機について著書を発表したバングラディッシュの作家のファールーク・チョウドリーが、『労働者階級は世界を変革できるか』(Can the Working Class Change the World, Monthly Review Press, 2018)の著者でマンスリー・レビュー出版社の編集長でもあるマイケル D. イエイツに、労働者階級の統一というテーマでインタビューした。

チョウドリー: 現在多くの国々で大衆の怒りと抗議が席卷しています。数十万人規模のデモ

が、正義、尊厳、平等、安全、平和を求めて展開されています。人々は国のやり方に疑問を抱き、それに挑戦し、一般の抗議運動から政治的スローガンを掲げた政治運動に変わりつつあります。しかし、支配階級と国家が一つとなって労働者階級の生活を隅から隅まで支配して、様々な矛盾を作り出しているのですが、これらの闘争は階級闘争というより、皮膚の色に基づく人種差別やカーストなどの身分や社会的差別への抗議という路線で行われています。人々は、雇用、社会的・経済的インフラ、刑務所、レクリエーション、土地、家庭生活などすべての面で攻撃・圧迫されているのですが、これに対する反撃が階級路線でなく反差別闘争という形で行われていることに、あなたはどのように考えますか。

イエイツ：複雑な問題です。歴史的に資本家は労働者階級内部の差異 — 所得差、性差、宗教差、人種差、皮膚の色差等々 — を利用して労働者階級を分断し、労働者が一つの階級として意識して資本家に一致団結して闘いを挑まないように、お互いを反目するようにさせてきた。その例はいくらでもある。現在のインドでは、ほとんどのヒンズー教徒もイスラム教徒も労働者階級だが、政府と資本家は反イスラム教徒憎悪を煽り立て、ヒンズー教徒大衆を組み込んで、イスラム教徒への暴力を公然と奨励している。米国ではドナルド・トランプが、圧倒的に労働者から成る移民、中国系米国人、先住民、黒人に対する暴力を奨励・支持している。トランプの出鱈目なコロナ・パンデミック政策にもかかわらず、世論調査では50%の白人が彼を支持し、彼の差別路線を受け入れ、中には過激な暴力を振るうものもいる。その多くも労働者である。米企業経営者は歴史的にずっと労働者分断戦略をとってきた。インターナショナル・ハーベスター社は人種差別的雇用配分をしながら、わざと違う言葉をしゃべる、歴史的に反目してきた労働者を同一職場で働かせる戦術を採用した。狙いは労働者間連帯を成立させないためである。

黒人は苛酷で危険な低賃金労働を担わされた。奴隷制の名残りとして黒人は生来的に劣等だというプロパガンダのために、就労・就職差別は当然だと白人労働者に受け入れられた。黒人が低賃金で誰もが嫌がる仕事に就労するのは身分相応のことだというステレオタイプが広がった。

資本主義が自分にとって都合が良い労働形態と労働者人格を作り出し、労働者組織を自分にとって都合がよい形に作り変えてきたのは、歴史的事実である。だから、以前は多くの組合が黒人を組合員にしなかった。組合に入れる場合でも、黒人だけの特殊支部という形で組織した。中には寝台車ポーター組合（**Brotherhood of Sleeping Car Porters**）のような黒人だけの全国組織があった。

黒人の組合加入を認めて多人種の支部を組織する組合もあったが、組合内の黒人差別はなくならなかった。例えば全米鉄鋼労働組合（**USW**）では、歴史的に黒人は鋳物工場やコークス工場などの汚く・危険で、賃金が安い職場で働かせるという労使契約が組合と経営者の間で交わされていた。また、先任権¹の面でも差別があった。かりにコークス工場で25年間働いてきた黒人がいたとしよう。偶々他の職場、例えば機械工場に欠員ができて、うま

くそこへ移り、そこで再び15年間勤務したとしよう。その15年目に機械工場でレイオフが行われることになった。他の白人労働者はせいぜい10年未満の連続勤務だった。この場合誰が一番先にレイオフされるであろうか。言うまでもなく黒人労働者である。それが労使間の無言の約束、あるいは契約であったからだ。

こういう差別的労使慣行や契約を変えるために、公民権運動は会社と組合相手に長期の裁判闘争を闘わなければならなかった。多くの白人労働者は古い慣行の方が有利なので、黒人に平等な資格を与える変革に腹を立てた。同じような裁判闘争をオール白人の建設労働者組合にも行った。リベラル気風で有名で、1960年代の連邦政府が発布した公民権法を支持した全米自動車労働組合（UAW）内でも黒人差別が強く、1970年代に黒人組合員たちは差別を支える UAW 本部に抗議して黒人だけの組織を結成して「革命的労働組合運動」と名付けたことがあった。彼らは組合事務所にピケを張って、差別を見て見ぬふりをする本部に抗議した。彼らは UAW を「U Aint White」（お前は白人じゃねえ）の頭字語だと皮肉った。

2020年の現在、確かに黒人の組合加入が増えているが、組合役員はほとんど白人であるという事実を指摘したい。

同じことが女性についても言える。炭鉱夫は女性が炭鉱で働くと不吉だと信じ込んでいた。多くの職場では女性労働者は白人男性労働者から罵声を浴びせられ、性的ハラスメントや暴力を受け、時にはレイプされることもあった。現在でも女性の組合役員は少ない。女性が役員をしている組合は、圧倒的に女性が多い教員組合、看護師組合、保育士組合である。伝統的な男性職場に女性が入ろうとすると、組合があろうとなかろうと、男性労働者からのかなり強い抵抗がある。

米国以外の国でも同種の例がある。英国統治下のインドで近代的工場が発展していたとき、工場主はヒンズー教徒とイスラム教徒の宗教的感情を操作して労務管理を行った。1947年のインド独立後も、地域ショービニズムの名のもとで、異なる宗教コミュニティの労働者を迫害する事例が各地で何回もあった。脅迫、放火、家屋打ち壊しなどの暴力が横行した。アフリカでも、搾取階級は同じ手口を使って部族争いを煽った。ナチスも同じ政策を使い、アーリア人優秀論を唱え、ユダヤ人やロマ人（ジプシー）などを劣等人種として迫害した。10月革命前のロシアでも、帝政ロシア支配層は同じことをした。今日のボリビアでも、支配層は宗教・民族路線に沿って国民感情を操作する政策を行い、先住民を悪魔化し、それを聖書で正当化している。

時代や場所が異なっても、支配者はいつも皮膚の色、信仰、身分制度、性差、民族性を利用して支配する。目的はいつも同じで、分断支配である。

あなたの質問に関して、2点私の立場を明らかにしたい。私が関心を寄せているのは労働者階級内の人種差、性差、宗教差、その他の差異で、労働者階級の統一と団結を実現するためにそれらの差異をどのように克服できるかという問題だ。企業、組合、その他の団体の上層部や政治家に女性や有色人を増やそうという主張や運動には、私の関心はありません。ボ

スが女性だろうとゲイだろうとヒンズー教徒だろうとイスラム教徒だろうとラテン系だろうと、ボスはボスだ。政府首脳に関しても同じで、インディラ・ガンディーもウィンストン・チャーチルも同じように労働者階級の味方ではなかった。それから、階級闘争を確実に妨害するような労働者階級内差異を克服しようとしてきた組合や労働運動体も存在したことも強調したい。

チョウドリー：米国には黒人労働組合や有色人労働組合という歴史があります。それはかなり最近まで続いていました。あなたはこれを労働者階級分断という資本の戦術の成果の一つだと思いますか。もうそういう局面、つまり皮膚の色で組合を分離するという段階は過ぎ去ったのでしょうか。

イエイツ：黒人組合の形成には二つのパターンがあった。多くの場合、全国組合のオール黒人支部という特殊な形が黒人組合員に押し付けられた。黒人差別の産物です。現在ではこれは合法的ではなく、私の知る限りでは、もう存在していない。もちろん、組合が分裂していた方が経営者にとってありがたいことです。それに、白人労働者がこの組合分裂を廃止すべきだという運動を起こしたこともなかった。分裂している方が、賃金面、労働条件面などの面で白人優遇・白人優越が維持されたからだ。

黒人自身の手で黒人のための労働組織体が作られた場合は、既存組合が黒人労働者の組織化に関心がなかったり、黒人の抱える諸問題を取り上げる気持ちがなかったことが大きな動機となった。A. フィリップ・ランドルフ²が1920年代に黒人だけの寝台車ポーター組合を結成したのはそのためだった。この黒人組合はアメリカ労働総同盟から認可を受けていたが、組合自体は役員も組合員もすべて黒人だけの組織であった。黒人組合の役員は黒人社会の指導的人物だったが、米国社会からは差別・隔離された存在だった。彼らは公民権運動で指導的役割を果たした。

黒人以外の非白人で構成された労働組合としては、統一労働者組織委員会があった。それが生まれた西部では、農業労働者のほとんどがチカーノ（米国で生まれたメキシコ系米国人）とメキシコからの移民で、両者の反目がこの組合内であった。農業州の一つカリフォルニア州でフィリピン人移民が中心となって農業労働者の組合組織化が促進された。そんなことから、サザール・チャベス³のチカーノ主導の農業労働者組合とフィリピン人活動家の間でかなりの反目があった。概して、メキシコ人移民労働者はチカーノより急進的・戦闘的だったので、チャベスは彼らに組合の主導権を奪われないように敵対的態度をとることが多かった。時には、組合として不法メキシコ移民に暴力的排斥行為、現在のトランプ陣営のやり方と同じくらい酷い弾圧行為を行ったこともあった。

もちろん、平等原則を守れと労働組合に圧力をかけた黒人団体やラテン系団体や女性団体の活動もあった。現在では、組合内に、女性、黒人、有色人、同性愛者などのマイノリティの権利擁護を主張するコーカス（組織内グループ）があつて、活躍しています。こういう

コーカスが生まれるのは、すべての組合員が平等で公正に処遇されていないことや、組合がマイノリティが抱える問題に取り組む姿勢が欠如しているからだ。例えば、女性組合員は育児休暇を労使交渉で取り上げることがを望み、組合会議や大会で保育室を設置することを望んでいる。これらのコーカスは分裂的対立グループではなく、労働者階級統一推進のために必要なものである。

チョウドリー：資本主義システムは非人間的状態、屈辱、悲惨、野蛮、搾取等からの解放を妨害する。システムは危機になるとナチスなどと組む。ナチスは巧妙に大衆に働きかけてその心を掴み、ドイツ以外の国々への憎悪を培養しました。時には搾取階級の一部が反差別抗議勢力の味方を装って政治的に利用することもある。その反対派閥は他の国民を取り込んで利用する。こうして上からの分断政治が固定化される⁴。こういう反差別運動は人民解放の道を歩むでしょうか。それとも、結局は搾取階級の術中に陥ることになるのでしょうか。それは人民内の差異を対立と憎悪に転化させる資本主義システムとの闘争に発展するのでしょうか。

イエイツ：初めに言ったように、支配階級は労働者階級を分断支配する。だから、我々が為すべきことは、労働者階級（そして数のうえでも資本と闘ううえでも重要な仲間となる農民階級）が内部分裂しないようにすることです。階級意識に基づいて結束する組合を懸命に育成しようとした組織（組合、政治団体、直接行動する活動家グループ等々）もありました。例を挙げると、毛沢東等が指導した頃の中国共産党がそうでした。侵略日本軍と蒋介石反動勢力と人民戦争を行う中で、自分たちの基盤となる農民と労働者の間の差異に特別な注意を払った。土地所有の点で農民たちの間に違いがあることを見て、地主や富農に厳しくあたったが、中農と貧農を大切にした。共産党が主要に関心があったのは貧農で、彼らに耕作地を配分し、貧農を農民生活の根本的再編と紅軍構成の中核部分にした。中農も、教育によって、貧農と連合できる可能性があったので、仲間に引き入れた。貧農と中農に日本侵略軍と国民党を打倒することの必要性をしっかりと理解させた。同じように女性にも特別な注意を払った。女性は男性以上に厳しく苛酷な生活を強いられてきたので、女性を解放するために結婚・離婚に関する慣行や制度を変革し、纏足を廃止し、紅軍や地方の共産党の政治組織に参入させた。またイスラム教徒地域や先住民地域にも特別な配慮をした。漢人との差異に配慮して大切に処遇した。そういう形で共産党は農民と労働者の間にあった偏見をなくし、人民の統一を実現しようとしたのだった。

米国でも、1950年代以前（1950年代に米国共産党は大弾圧を受けて形骸化、その後革新的勢力でなくなった）の共産党は黒人労働者に特別な注意を払った⁵。黒人差別が特に強い深南部で黒人・白人労働者統一労働組合を作ろうと試み、時には成功したこともあった。1930年代の大恐慌時代、共産党系列の労働組合は黒人労働者を組織し、彼らを人種統合労組の中心的部分にするのに成功した。例えば食肉加工産業で働く人々の全米精肉

労働者組合である。食肉加工産業では黒人労働者が最もきつい仕事を担っていたが、彼らの仕事は家畜の屠殺・捌き、パッキング・販売の過程の中で重要な作業で、彼らを組合に入れないと組合活動そのものが成立しなかった。この組合は当然の組織化を行っただけでなく、黒人・白人団結を作り出してボス権力に対抗した。黒人労働者を白人労働者と平等に処遇させ、賃金の平等、職種転換の平等も保証させた。それだけではない。黒人組合役員と白人組合役員と一緒に労働者が暮らしている地区へ入り、レストラン、バー、商店の黒人差別を止めさせる運動（デモやボイコット）を指導した。1950年代半ばには精肉労働組合員は、黒人も白人も、米国で最高の賃金、鉄鋼労働者より高い賃金を獲得していた。黒人の組合役員もいた。

もっと新しい事例は、1970年代のオーストラリアの建築労働者連盟（the Building Laborers Federation）である。この組合は初めギャングや墮落した役員が支配する、主として貧しい移民労働者の組合だったが、ジャック・マンデー等急進的活動家グループの働きによる下からの改革を経て、階級意識の強い戦闘的組合となった。組合は職場問題だけでなく、もっと幅広い問題を取り上げた。1970年代、都市の高層ビル建築ブームを環境破壊として問題にし、他の組合や市民団体に呼びかけて建築現場に大規模な共同ピケ・ラインをはったことがある。これらの闘争によって労働者の賃金、手当、職業訓練機会、尊厳ある扱いが大きく前進した。同時に建築労働者組合は建築現場の占拠と労働者管理による管理という発想を実験した。自分たちで職場班長を選出し、経営者側のロックアウト攻勢、職場安全の欠如、首切りなどに対応して座り込み、職場占拠、自主管理などの闘争を行った。これらの戦術を使って女性やアボリジニーの雇用を要求し、雇用された女性やアボリジニーを組合員に入れた。移民労働者のために二か国語話者をオルガナイザーにし、組合パンフや記録を移民の言語に翻訳した。また環境破壊の醜い建築ラッシュに抵抗する「グリーン建築」の思想を組合員に教育し、組合員は環境に有害な建築現場で働くことを拒否した。このような組合行動はすべて大衆的討議と民主主義的過程を経て承認された。

以上の例から分かるように、労働者階級内に分断と反目があるのは事実で、それを克服して労働者の階級的統一・団結を実現するためには組合内部からそれに取り組みなければならない必要が見えてくる。

チョウドリー：その組合内部の取り組みに関してですが、どういう戦略・戦術で労働者統一を実現できるのでしょうか。資本主義が抑圧、搾取、憎悪の政治を通して人々を分断していることは分かっています。つまり、資本は被搾取階級全体が搾取階級全体に立ち向かうことをさせないようにしています。全人民的解放の闘いを構築するうえで、支配階級が作り上げた分断構造、分断政策とどのように闘えばよいのでしょうか。

イエイツ：答えの一部はこれまで話してきたことの中にあります。過去の闘いがこれからの闘いの指針になります。しかし、何点か述べましょう。第一に、大衆の社会変革というラジ

カルなプログラムへの参加を勝ち取るためには、労働者階級組織自体が根本的原則、決して曲げることが根本的原則を堅持しなければならない。戦術や大まかな戦略の変更はあってもよいが、根本的原則から逸脱してはならない。中国共産党は「耕作者に農地を」 — つまり土地を耕す者が土地を所有すべきことをスローガンに掲げていた。抗日戦争で国民党と戦術的連携をしなければならなかったとき、土地の貧農への配分を制限せざるを得なかったが、決して原則を捨てたわけではなかった。すぐに貧農への土地分配を再開した。労働組合やラジカル政党は階層的賃金制度を廃止し、それに代わって労働者の職場管理、利益でなく使用のための生産、つまり人民のための生産、社会生活全面にわたって実質的な平等の実現を、原則として掲げなくてはならない。そのような組織は、当然、反帝国主義組織となり、現代的にはエコ社会主義的になって、人間が再び自然と調和して生活するようになることを目指す。そして、繰り返し言ってきたように、男女間、黒人・白人・有色人之間、クイアールとストレートの間の平等を根本原則とする組織であるべきだ。

第二に、労働者階級の組織は直接行動運動を採用し、その闘争様式を支持すべきだ。良い例はブラジルの土地なし農民運動 (MST) である。MST のモットーは「占拠、抵抗、生産」である。未開墾地、基本的には農民や貧しい人々から金持ちと権力者が盗んだ土地を占拠し、その土地を奪い返そうとする権力に時には実力で抵抗し、占拠した土地で生産活動をおこなってその生産物を生産従事者とそのコミュニティに分配するという意味だ。1960~70年代に米国で活躍したブラック・パンサー党も貧しい黒人のために様々な事業を行った。デイケア施設運営、無料朝食、診療所設置等々。都市農業や協同組合などの運動も、労働者が自分たちの生活を自分たちの手で維持管理する経験となり、同時に地域社会にモノとサービスを供給する。そこでは様々なアイデンティティの人々が一緒に働くために、労働者としてあるいは人間としての仲間意識が発展し、社会と生活の共有感が高まる。

第三に、教育。資本家とそれに組する政府が民衆の間の差異を利用して作り上げた分断を克服するためには、教育が重要である。組合やその他の組織は教育プログラムを企画して実施すべきである。政治経済に関する事柄、歴史、自らの組織の歴史、あらゆる種類の階級闘争、文化、食物生産、エコロジーなどを労働者が学習する機会を提供すべきである。教育方法は実践的、民主主義的、学習者主体的で、教える側と学ぶ側が平等で、相互学習できる形であるべきだ。

最後に、労働者は労働者であるばかりでなく人間であることを忘れてはならない。生活の場のコミュニティがあり、様々な利害関係を持ち、労働以外に多くの関心事を持っている人間である。従って、生活全分野を階級闘争の対象としなければならない。住宅、環境、ヘルスケア、家庭生活、学校教育、レジャー、交通等々。労働者も、労働だけを取り上げる組合よりも生活全体に関心を寄せる組合の方に魅力を感じるであろう。

以上のことを次のようにまとめよう。アイデンティティの如何にかかわらずすべての労働者に益するようなプログラムを推進することが階級的統一・団結を実現する最良の道だと唱える左派がいます。米国にもいます。例えばアメリカ社会主義者 (DSA) が標榜するプ

プログラムは、まずまずの賃金の雇用を保証すること（国家にケインズ主義的政策によって完全雇用を目指すように、たくさん雇用を創出させること）、メディケア・フォー・オール⁶（国家が財源負担するメディケア）、グリーン・ニュー・ディール（地球温暖化軽減事業への投資によって上質の雇用を創出するという政策運動）などです。女性、黒人、その他の有色人が低賃金労働者の中で圧倒的人口を占め、良質ヘルスケアを受けることもなく、たいていは環境的に欠陥がある場所で居住しているので、上記のようなプログラムから一般白人や金持ち以上に恩恵を受ける、という論理である。だからこのような改革プログラムが自動的に平等化を促進する、という論理である。

この政治戦略が見落としているのは、レイシズム、家父長制、同性愛嫌悪が経済問題では解決できないことだ。それらはほとんどの白人ストレート（非同性愛者）男性の心の中に深く埋め込まれている。さらに、生活のあらゆる部分にも深く埋め込まれている。単純でびっくりするような例をあげよう。酸素濃度計は血液中の酸素濃度を測る比較的簡単で安価な医療器具である。血液中の酸素濃度測定は新型コロナウイルス感染者の治療にとって極めて重要である。ところで、この医療器具には驚くべき人種的偏りが埋め込まれているのだ。その事実は気付かれていて、それを是正するのは可能だったにもかかわらず、何にもされなかった。もともとこの酸素濃度測定器は白人にテストして作られて白人だけに使われてきたものだった。白人の皮膚の色が光を良く通すので、白人には向いているが、肌が黒い黒人に使うと誤った測定値を出すのだ。だから、白人を測定して治療法を決定する医師は、同じ状況の黒人に関しては誤れる測定値に基づいてまったく異なった治療法を決定することになる。黒人は当然の治療を受けられなくなるのだ。社会民主主義者の一様な改革政策では、こういう人種的偏りを正すことはできない。

このような例はたくさんある。確かに、社会民主主義者が主張するように、みんなが公費負担の医療を受けるようになれば、米国にとって素晴らしいことだ。しかし、多くの調査が示しているように、公費だろうが私費だろうが、黒人が受ける医療は白人のそれより質が悪いという差別の事実がある。自分でも気付かずに人種的偏りがある医療行為を行う医療提供者の再教育も含めて、この問題を個別に取り上げて克服しないと、国民皆保険プログラムが実現しても医療の平等は実現しないであろう。

米国の二大癌であるレイシズムと家父長制は資本主義社会の諸制度の中に深く食い込んでいる。そのため、それは国民の心の中にまで入り込んでいる。だから、この二つの癌を取り上げて直接対決し、根絶することが絶対必要である。労働者階級の諸組織は自分たちに仕掛けられた分断戦術と闘わなければならない。昔、私がペンシルベニア州ピッツバーグで自動車労組主催の労働学校で教えていたとき、一人の白人男性労働者が政府の公的扶助の世話になっている人々を見下すような発言をしたことがあった。それに対し黒人女性労働者が反論した。やがて、熱のこもった組合員同志の議論が続き、結局白人労働者が自分の発言が間違っていたことを認めた。こういう議論が必要なのだ。こういう議論を通じて、お互いが欠陥だらけの生身の人間で、様々な形で苦しみや矛盾を抱える人間、しかし、人間的幸せ

を望む点で同一であることが分かるのだ。

インドなどの国で被搾取階級人民のために活動する労働者組合や農民組合も、人民内部の差異を分析して、それを克服して、被搾取階級人民の統一を目指すべきだ。ダリット⁷はもちろん、他の被抑圧人民も含めた統一を目指すことです。資本によって搾取される人々を全部結集させれば、労働者階級陣営の勢力は絶大なものになる。多くの国の搾取階級の方も超国家主義的、偏執的愛国主義的、移民排斥的のスローガンや古い封建的思想をバラまいて、右翼的組合などを組織化している。世界には階級的視点のない労働組合、皮膚の色に基づく差別やカースト制度を支持する組合、搾取に反対する闘いを組まない組合、労働者が搾取される構造を説明しない組合がある。支配階級の分断策動の結果資本家の味方をする組合もあるのです。いわば人民の奪い合いを資本や権力とやらなければならないのです。

訳注

¹ 連続勤務年数による特典で、先任権を持つ者はレイオフ対象の最後となり、レイオフされても一番先に再雇用される。

² 1889～1979. 社会主義活動家、公民権運動活動家。1925年に寝台車ポーター組合を設立。

³ 1927～1993. 統一労働者組織委員会の前身となった農業労働者組合の創設者で、公民権運動活動家。自由勲章を受賞。

⁴ 現在のトランプ対バイデン大統領選挙に見られる。

⁵ 黒人作家リチャード・ライトの『アメリカの息子』（1940）の中で、黒人犯罪者少年ビガーをビガーに恋人を殺害された共産党員が擁護するプロットがある。

⁶ 2019年サンダースやウォーレン等民主党14人の上院議員が提出した法案で、不法移民も含めた米国在住者すべてを対象とする無料メディケア。

⁷ ヒンドゥー教のカースト制度の最下層民。